

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	認知症の基本理念に加えて事業所独自の理念を作り上げている。	毎朝の申し送り時に職員全員で理念を唱和し、共有されています。現在の理念は文章が長いので今後職員と一緒に見直す予定です。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営会議で、地域交流の協力をお願いしているが、新興住宅もあってなかなか交流が持てない。夏祭りは、地域の子供達が来てくれる。散髪は地域の理髪店をお願いしている。	地域のさいの神などの行事や保育園児と七夕などで交流しています。またホームの夏祭りにも地域の方々に参加していただけるように努めています。今後も市の助言を頂く中で地域との交流を図っていく予定です。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市から地域に助言をして頂いたが、新興住宅もあって地域の方々の受け入れが難しい。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	職員の意見等を運営会議で報告し話し合っている。	運営推進会議には市の担当者、包括支援センターの職員、民生委員、区長、ご家族代表者、入居者、事業所の職員が参加し、事業所の現状の報告のうえ参加者から意見をいただき、サービスの向上に努めています。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入居希望者の相談や施設の運営について助言を頂いている。	市の担当者には運営推進会議にも参加していただいております。包括支援センターと市の担当者には必要に応じ連絡をとり、分からないところは確認をしています。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。常に拘束の可能性があるときは、他の方法について話し合っている。	昨年度の課題となっていたベット柵の使用も改善されており、朝の申し送り時に身体拘束について必要に応じて確認をしています。	
7	(5-2)	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定例会議にて事例を話し合っている(職員の自己啓発のため)新聞等の事例を見ながら話し合っている。	入社時の研修でも虐待防止について研修を行なうほか、毎月の定例会でケース検討を行っています。また新聞・雑誌等で関連記事があれば職員に配布し注意を払っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、制度を活用している方が居ない為、職場としては学ぶ機会がないが、職員が個人的に研修しており必要性は感じている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、読み合わせを行い、説明しながら理解していただいている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホール入り口に意見箱を設置している。面会時等に入居者様の様子を伝えながら、ご家族様の意見・要望を聞いている。	事業所の入り口に第三者委員の掲示及び意見箱を設置し、意見や苦情を出せるようにしています。また、面会時に頂いた意見や要望にも応える様にしています。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営会議についての報告は、毎月の定例会議で職員に報告し、それに対しての意見を聞くようにし、運営者にも伝えており、職員間の意見交換もありますが、余り反映されない部分もあります。	毎月の定例会での議題は職員が持ち寄るようにしており、管理者も含めて議題の検討をし運営者に伝えるようにしています。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護業界での低賃金や職員不足の問題は、当施設においても共通する点がある。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務調整をしながら、全員が研修会に参加できるようにしている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流を希望しているが、なかなか持てない。疑問点や問題等があれば、他事業者から情報を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、試し入居を試みて、本人の不安を軽減するよう努めている。これまで、生きてこられた生活環境を把握し、入居後不安が無いが、様子を見ながら、声掛けするなどの対応をこころ掛けている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安や気持ちの変化を、話しやすい環境と信頼関係を築けるように努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申し込み相談時、満床で入居は出来ないとき、他グループホームや利用できるサービス等の助言を行った。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に畑に行き、季節の野菜の耕作や収穫・調理し、職員が分からない事を人生の先輩として教えていただきながら、作業をしている。		
19	(7-2)	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年間行事は、本人、家族が参加して、職員も同じ時間を共有し、家族との関係を深め、本人を支えるよう努めている。必要品は、こちらで用意するのではなく、家族に連絡し持参して頂き家族と会う機会を作っている。	毎月配布する「てるてる家族新聞」や電話などで情報を共有するよう心がけ、ホームの夏祭り・餅つき・蕎麦会にもご家族に参加していただき、関係を断ち切ることなく本人を支えるよう努めています。	
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	年間を通しての行事に、家族や他事業部に呼びかけ交流に努めている。外出・外泊は、いつでもできるよう家族に呼びかけている。	職員との馴染みの関係を継続できるように職員の異動は基本的には行ないません。また、ご利用者の希望で馴染みの美容室でカットされている方もいます。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共有スペースで同じ作業をしたり、楽しく会話したり、全員で1つの目的を達成するように心かけている。その時に応じて、職員が関わりお互い気持ちよく過ごせるよう工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に、入居者様と面会に行ったり、現在の状況等を得ている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	問題等があれば、定例会議や申し送り時等で検討し改善している。	日常の会話の中から何気ない一言やふとした時にでてくる言葉に着目し、その言葉や思いをその方の主張としてとられるよう検討しており、外出・買い物・睡眠などご利用者の意向に沿った支援をするようにしています。	
24	(9-2)	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人自身の話や、家族の面家事に、これまでの生活状況についての確認や情報を得ている。	入居前にはご自宅に訪問し、ご利用者とご家族と面談し、これまでの生活状況について情報を得ています。またホームの生活の中で新たに得た情報も追加して共有しています。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活リズムを理解し、本人の意に沿った支援に心がけている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	問題があれば、家族と連絡を取り合っている。月1回評価を行い、6ヶ月ごとに見直しを行っている。プランの変更時は、定例会議にて検討している。	ご本人の考えや気持ちを日々の生活の中で聞き取ったり、担当者を中心に様々な視点から意見交換をし、その情報をもとに介護計画を作成しています。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録の記入と職員共有の申し送りノートで情報を共有している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その人の、時々々の状態に合わせて柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物等で馴染みの関係が出来、行った時には、声掛けや援助をして頂いている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からに係りつけ医師に受診又は往診をして頂き、状態にあった処置をして頂いている。異常時は常に連絡し指示を仰いでいる。	入居時には協力医にご利用者の情報を提出するほか、受診の前にはご家族に日々の状態を報告しています。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同事業所の看護師に情報を伝え、相談や支持を仰いでいる。また、年4回事業所全体の看護師の会議があり情報交換している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は、様子を見に行ったり状態を聞いたりして、退院決定時は、医療機関と退院会議を行い、退院後の受け入れに備えている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事例は無いが、入居時家族に週末期についての意向を確認している。重度化については、その都度、家族の意向等を確認し相談している。	事業所して看取りの指針を作成し、入居時にご家族に終末期の対応について確認し、職員にご家族の意向を伝えていきます。また職員の理解を深めるためのターミナルケアの勉強会も3回行いました。	
34	(12-2)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年救急法を消防士を招いて研修を行っている。	消防署が実施している救急法の研修会に職員全員が参加しています。また、法人として防災委員会を設けており、事故発生時の対応などに力を入れています。	
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	入居者様を含め、避難訓練を定期的に行っている。	ご利用者者を含め年に2回定期的に避難訓練を実施しており、昨年度の課題であった非常用食品も準備がされておりました。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の誇りやプライバシーを損なわないような対応、言葉かけを行っている。	広報に掲載する写真についても同意を得ており、資料の保管はスタッフルームでしっかりと行われており、ご利用者への対応も一人ひとりの誇りやプライバシーを損なわないような対応、言葉掛けを行っています。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人に合わせた言葉かけを行っている。意思疎通困難な方には表情を読み取り支援している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れ以外では、特別なプログラムは用意せず、畑仕事や散歩など個々の入居者に合わせた支援を行っている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みを確認してみだしなみを支援している。散髪も、本人の意思を尊重し理髪店に来てもらっている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りや盛り付けを一緒に行い、食事と一緒に同じテーブルで食べています。また、自家菜園の野菜を使用した食事のメニューを取り入れています。	食事作りや盛り付けを一緒に行い、食事も同じものを一緒に同じテーブルで食べています。また、自家菜園でとれた旬の野菜をメニューに取り入れているほか、お誕生日食を工夫するなどの対応もしています。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食ごとに食事摂取量を、また、必要に応じ水分量を記入しています。また、1ヶ月の食事のメニューを栄養士に見ていただき指導を受けています。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は、必ず口腔ケアを行っている。出来ない方は職員が介助し行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	食事前・就寝前には、定期的に越えがけや誘導し、それ以外の方は本人の意思に合わせ排泄介助を行っている。	昨年度の課題であったご利用者のパターンの把握もされ、個々に応じた対応がされています。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	係りつけ医師に相談し下剤等を処方してもらっている。食べるものを工夫している。(りんご・みかん等)		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日、入居者の希望により入浴している。	入浴時間は特に決めず、ご利用者の要望を聞きながら対応されています。また、本館にある大きなお風呂に入り気分転換を図ることもあります。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間眠れない人や早く起きる人には個別に対応している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	配薬チェック表や個別のケースに薬リストがあり、目的や用法を確認している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑仕事、調理作業など、その人の生活歴から得意なことや好きな事を知り、役割や楽しみごととして行えるよう支援しています。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月1回程度、季節にあった外出を行っています。また、季節感を感じられるようドライブにでかけたり、お天気の良い日には外でお茶を飲んだり、食事をしたり、畑仕事を手伝ってもらったりしています。	計画を立て月に1回は外出をするようにしており、季節感を感じられるようぶどう狩りや花見などのドライブにでかけています。また一人で外出したい場合はできるだけ希望に添えるよう支援しています。天気の良い日は、近くに散歩に行き、外でお茶を飲んだりしてもらっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が出来る方が少なくなっている。 施設で家族より、お金を預かっている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話を取り次いでいる。荷物等が届いた場合は、職員の援助により、御礼の電話をかけて会話をしてもらうように支援している。年賀状を出す援助を行っている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間全体は、一般住宅と同じように木の質感があり落ち着いた環境です。また、スペースが広く居心地の良い雰囲気になっています。	共用空間全体は一般住宅と同じように木の質感があり、落ち着いた色調です。また、スペースが広くゆったりと居心地のいい雰囲気が流れていました。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間の空間を広くし、ソファを置いたり、畳部屋にはコタツを置き、談話やお昼寝が出来るようにしています。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一部の方は、使い慣れた家具などを持ってきていただき、自宅に近い環境で居心地が良く安心して生活が遅れるように工夫しています。	一部の方は使い慣れた物を自宅より持ち込み、ご家族の写真や編み物などが置いてありご自宅に近い環境で居心地良い部屋になっています。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の状態に合わせて、環境整備に勤め、出来ることを、ゆっくり行えるように支援しています。		



サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と
		2. 利用者の2/3くらいの			2. 家族の2/3くらいと
		3. 利用者の1/3くらいの			3. 家族の1/3くらいと
		4. ほとんど掴んでいない			4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように
		2. 数日に1回程度ある			2. 数日に1回程度
		3. たまにある			3. たまに
		4. ほとんどない			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 少しずつ増えている
		3. 利用者の1/3くらいが			3. あまり増えていない
		4. ほとんどいない			4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 職員の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 職員の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 利用者の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 家族等の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 家族等の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が			
		2. 利用者の2/3くらいが			
		3. 利用者の1/3くらいが			
		4. ほとんどいない			